

「JASTE29 開催報告」
【9 ページ】

JASTE29 の開催報告記事を掲載しました。

事務局通信

第 29 回総会議案の承認についてのお願い

第 29 回年次総会で下記案件が仮承認されましたが、出席者が定足数に達していないため、本ニューズレターを通して、会員の皆様の意見を集約します。コメント・御意見を学会事務局(jaste.adm@gmail.com)までお願いいたします。御意見等を集約した後に、問題が無ければ下記総会議案を承認されたいたします。締切:2019 年 9 月末日。(幹事長:保坂 哲朗)

記

日本熱帯生態学会第 29 回定例総会

日時:2019 年 6 月 15 日(土)

場所:北海道大学大学院環境科学院 講義棟 D201 室

議題:

- I-1. 2018 年度事業報告(案)
- I-2. 2019 年度事業計画(案)
- II-1. 2018 年度会計報告(案)
- II-2. 2019 年度予算(案)
- III. 第 30 回日本熱帯生態学会年次大会開催予定

I-1. 2018 年度事業報告(案)

1. 研究会, 研究発表会の開催

(1) 第 28 回年次大会(静岡大会)の開催

2018 年 6 月 8 日(金)から 10 日(日)

静岡大学農学部総合棟

大会実行委員長:水永 博己

大会実行委員会:新江 利彦, 檜本 正明, 牧田 史子

連携学会:東南アジア学会, 日本アフリカ学会, 日本サンゴ礁学会, 日本タイ学会, 日本泥炭地学会, 日本熱帯農業学会, 日本マングローブ学会
共催:静岡大学

(2) 公開シンポジウム「熱帯地域のチャ栽培と環境・文化の多様な関係」の開催

2018 年 6 月 10 日(日)静岡大学農学総合棟(大講義室)

掲載記事

- 1 事務局通信
第 29 回総会議案の承認
についてのお願い
- 9 JASTE29 開催報告
- 9 託児サービス開設・利用
報告 四方 篤
- 10 書評 相場慎一郎

(3) ワークショップ等の開催, 後援, 助成
森林総合研究所 REDD 研究開発センター公開セミナー「REDD プラスはどこまで来たか? -機会を活かすために-」(2019年2月6日(水), 東京大学 伊藤謝恩ホール)の後援

2. 定期, 不定期出版物の刊行

(1) TROPICS の発行

【2018 年度に発行した巻・号】

27 巻 1 号(2018 年 6 月 1 日発行) 原著論文1報
Field note 1 報 1-31

27 巻 2 号(2018 年 9 月 1 日発行) 原著論文 2 報
33-58

27 巻 3 号(2018 年 12 月 1 日発行) 原著論文1報
59-66

27 巻 4 号(2019 年 3 月 1 日発行) 原著論文 2 報
Field note 1 報 67-101

【現在, 発行済み・編集集中の巻・号】

28 巻 1 号(2019 年 6 月 1 日発行) 原著論文 2 報
1-31

【原稿の編集状況(2019 年 6 月 14 日現在)】

2016 年度 受付 19 件:受理 9 件, 却下 10 件

2017 年度 受付 12 件:受理 5 件, 却下 7 件

2018 年度 受付 17 件:受理 7 件, 却下 4 件, 審査中
5 件, 取り下げ1件

2019 年度 受付 3 件

(2) ニューズレターの発行

【2018 年度に発行したナンバー】

No. 111 2018 年 5 月 25 日発行 24 ページ
JASTE28 最終案内, 変貌するラオス南部の水田漁撈
(辻貴志他), 吉良賞奨励賞(清水加耶), 書評(大石
高典)

No. 112 2018 年 8 月 25 日発行 8 ページ 総会議
案承認依頼

No. 113 2018 年 11 月 25 日発行 16 ページ
JASTE29 案内, JASTE28 公開シンポジウム報告(水
永博己), 吉良賞奨励賞(相蘇(眞田)春菜), 託児サ
ービス開催報告(四方篤), 書評(小池孝良, 中林雅)

No. 114 2019 年 2 月 25 日発行 4 ページ JASTE29
案内, 書評(藤田知弘)

(3) 学会メールの送信

メールアドレスを登録している会員に対し, 概ね 1 ヶ
月に 1 回程度メーリングリストを通じて, 求人,
TROPICS 目次, ニューズレター発行などの情報提供
を行った(広報幹事が担当)。

(4) 上記以外にした仕事

(i) TROPICS27 巻 4 号までを J-STAGE にて公開。

(ii) 2015 年 3 月に, Web of Science への掲載と,
Impact factor の取得にむけ, トムソン・ロイター社に申
請を行った。2017年に Web of Science に掲載された。
2019 年 1 月 Citation performance が悪いので Impact
factor を付与しないとの回答。

(iii) Scopus への登録(審査)申請, 2018 年 4 月 26 日。
2019 年 3 月 20 日 publication ethics and malpractice
statement が Journal website に無いため, 審査対象外
との連絡。

3. 第 28 回総会の開催

2018 年 6 月 9 日(土) 静岡大学農学部総合棟 201
室

2017 年度事業報告(案), 2018 年度事業計画(案),
2017 年度会計報告(案), 2018 年度予算(案)が仮承
認された。同内容については, ニューズレター No. 112
に掲載し, 学会員の承認を得た。

4. 第 29 回評議員会の開催

2018 年 6 月 8 日(金) 静岡大学農学部総合棟
第 28 回総会の議題, 第 29 回日本熱帯生態学会年
次大会(札幌大会)の開催, 若手研究者による集会の
開催支援について, 学会の PR について, 他。

5. 第 28 回編集委員会の開催

2018 年 6 月 8 日(金) 静岡大学農学部総合棟

6. 第 78 回および第 79 回幹事会の開催

第 78 回:2018 年 6 月 8 日(金) 静岡大学農学部総
合棟

第 79 回:2018 年 12 月 17 日(月)京都大学吉田キャン
パス本部構内 総合研究 2 号館 4 階大会議室

7. 吉良賞の選考

2018 年度の吉良賞募集は, 選考規定にそって 2018
年 2 月 28 日に締め切った。特別賞の申請者はなか
った。奨励賞は, 相蘇春菜氏(森林総合研究所 学
振 PD)と青柳亮太氏(スミソニアン熱帯林研究所研究
員)が選考委員会で選考された。受賞対象業績は以
下のとおり。

相蘇 春菜 氏

「Anatomical, chemical, and physical characteristics of tension wood in two tropical fast-growing species, *Falcataria moluccana* and *Acacia auriculiformis*」

青柳 亮太 氏

「Soil nutrients and size-dependent tree dynamics of tropical lowland forests on volcanic and sedimentary substrates in Sabah, Malaysian Borneo」

8. 学会事務体制

(1) 日本熱帯生態学会監事・編集委員長・幹事

監事 酒井 章子, 増田 美砂

編集委員長 藤間 剛

幹事長 保坂 哲朗

広報幹事 北村 俊平, 百村 帝彦

編集幹事 大橋 伸太

財務幹事 奥田 敏統

総務幹事 山田 俊弘, 竹内 やよい, 竹田 晋也(吉良賞担当幹事を兼任)

会計幹事 鳥山 淳平

庶務幹事 及川 洋征, 大石 高典, 北島 薫, 佐々木 綾子, 四方 篝, 諏訪 鍊平

(2) 事務局・編集委員会・会計事務

【学会事務局】

〒739-8529 広島県東広島市鏡山 1-5-1

広島大学 大学院国際協力研究科 開発技術講座

日本熱帯生態学会事務局 保坂 哲朗(幹事長)

TEL: 082-424-6929

FAX: 082-424-6929

E-mail: jaste.adm@gmail.com

【編集委員会(投稿原稿の送付先)】

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林植生研究領域(気付)

日本熱帯生態学会編集委員会 藤間 剛(編集委員長)

TEL: 029-829-8824

E-mail: tropics.jaste@gmail.com

【会計事務】

〒860-0862 熊本県熊本市中央区黒髪 4 丁目 11-16

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 九州支所

日本熱帯生態学会 会計事務担当 鳥山 淳平

TEL: 096-343-3739

e-mail: jastetreasurer@yahoo.co.jp

(3) 評議員

相場慎一郎, 阿部健一, 市岡孝朗, 市川昌広, 伊東明, 井上真, 大久保達弘, 奥田敏統, 落合雪野, 北島薫, 北村俊平, 佐藤保, 竹田晋也, 田中憲蔵, 藤間剛, 百村帝彦, 増田美砂, 山田俊弘, 湯本貴和, 横山智

(4) 吉良賞選考委員会

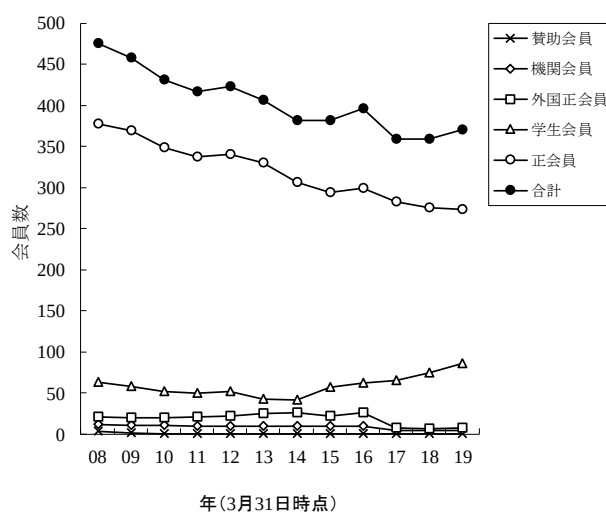
落合雪野(選考委員長), 竹田晋也, 原田一宏, 増永二之, 米田令仁

9. 会員動向

(1) 2018 年度(2019 年 3 月 31 日現在. 括弧内の数字は 2018 年 3 月 31 日からの変動)

種別	2018.3 現員	18 年減	18 年増	2019.3 現員
正会員	275	-10	+ 8	273(- 2)
学生会員	74	- 5	+ 17	86(+12)
外国人会員	6	- 0	+ 1	7(+ 1)
機関会員	4	- 0	+ 0	4(± 0)
賛助会員	0	- 0	+ 0	0(± 0)
合計	359	- 15	+ 26	370(+11)

(2) 過去 11 年間の変動(2008 年 3 月 31 日から 2019 年 3 月 31 日まで)



10. その他

(1) 「若手研究者による研究集会の開催支援」について

て、JASTE29 における若手自由集会の募集を 2019 年 2-3 月に行った。

(2) 京都大学生態学研究センターおよび京都大学東南アジア地域研究研究所の「国際共同利用・共同研究拠点」制度への申請に向けたサポートレター(要望書)を提出した。

I-2. 2019 年度事業計画(案)

1. 研究会, 研究発表会の開催

(1) 第 29 回年次大会(札幌大会)の開催

2019 年 6 月 14 日(金)から 16 日(日)

北海道大学大学院環境科学院

大会実行委員長: 大崎 満

大会実行委員会: 露崎 史朗, 甲山 隆司, 平野 高司, 井上 京, 波多野 隆介, 藤井 賢彦, 高橋 英紀, 小池 孝良

連携学会: 東南アジア学会, 日本アフリカ学会, 日本サンゴ礁学会, 日本タイ学会, 日本泥炭地学会, 日本熱帯農業学会, 日本マングローブ学会

共催: 北海道大学大学院環境科学院

(2) 公開シンポジウム「泥炭地を巡る炭素の話」の開催

2019 年 6 月 16 日(日) 北海道大学大学院環境科学院 D201 大講義室

(3) ワークショップ等の開催, 後援, 助成

① 日本地球惑星科学連合 2019 年大会(JpGU2019)におけるセッション「沿岸海洋生態系-2. サンゴ礁・藻場・マングローブ」の共催(2019 年 5 月 28 日 千葉幕張メッセ)

② ラタン・ラル博士(前・国際土壌科学連合会長) 日本国際賞記念シンポジウム「土は持続可能な開発目標(SDGs)にどう役立つか(仮題)ーアフリカの土・市街地の土ー」の協賛(2019 年 9 月 2 日)

2. 定期, 不定期出版物の刊行

(1) TROPICS の発行

28 巻 1 号(2019 年 6 月 1 日発行) 原著論文 2 報

28 巻 2 号(2019 年 9 月 1 日発行予定) 受理済み論文 1 報

28 巻 3 号(2019 年 12 月 1 日発行予定)

28 巻 4 号(2020 年 3 月 1 日発行予定)

(2) ニューズレターの発行

No. 115~118 を発行する

※No. 115 は 2019 年 6 月 5 日に発行。

(3) 学会メールの送信

学会メーリングリストを通じて, 会員への情報提供を 1 ヶ月に 1 回行う(広報幹事が担当)。

3. 第 29 回総会の開催

2019 年 6 月 15 日(土) 北海道大学大学院環境科学院

4. 第 30 回評議員会の開催

2019 年 6 月 14 日(金) 15 時~ 北海道大学大学院環境科学院

5. 第 29 回編集委員会の開催

2019 年 6 月 14 日(金) 13 時~ 北海道大学大学院環境科学院

6. 幹事会の開催

第 80 回: 2019 年 5 月 24 日(月)~6 月 2 日(金) メールによる持ち回り幹事会

その他, 暫時必要に応じて開催する。

7. 吉良賞

2019 年度の吉良賞募集は, 選考規定にそって 2019 年 2 月 28 日に締め切った。特別賞の申請者はなかった。奨励賞は, 浅野郁氏(信州大学全学教育機構)が選考委員会で選考された。

【浅野 郁 氏(信州大学)】

High degree of polyphagy in a seed-eating bark beetle, *Coccotrypes gedeanus* (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae), during a community-wide fruiting event in a Bornean tropical rainforest

8. 学会事務体制

(1) 監事・編集委員長・幹事

監事 酒井 章子, 増田 美砂

編集委員長 藤間 剛

幹事長 保坂 哲朗

広報幹事 北村 俊平, 百村 帝彦

編集幹事 大橋 伸太

財務幹事 奥田 敏統

総務幹事 山田 俊弘, 竹内 やよい, 竹田 晋也, 伊東 明(吉良賞担当幹事を兼任)※

会計幹事 鳥山 淳平

庶務幹事 及川 洋征, 大石 高典, 北島 薫, 佐々木 綾子, 四方 篝, 諏訪 鍊平

※総務幹事に伊東明氏を追加. 吉良賞担当幹事は竹田氏から伊東氏に変更.

(2) 学会事務局・編集委員会・会計事務

【学会事務局】

〒739-8529 広島県東広島市鏡山 1-5-1
 広島大学 大学院国際協力研究科 開発技術講座
 日本熱帯生態学会事務局 保坂 哲朗(幹事長)
 TEL & FAX: 082-424-6929
 E-mail: jaste.adm@gmail.com

【編集委員会(投稿原稿の送付先)】

〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1
 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
 企画部 研究管理科 実験林室(気付)
 日本熱帯生態学会編集委員会 藤間 剛(編集委員長)
 TEL: 029-829-8122
 E-mail: tropics.jaste@gmail.com

【会計事務】

〒860-0862 熊本県熊本市中央区黒髪 4 丁目 11-16
 国立研究開発法人 森林研究・整備機構
 森林総合研究所 九州支所
 日本熱帯生態学会 会計事務担当 鳥山 淳平
 TEL: 096-343-3739
 e-mail: jastetreasurer@yahoo.co.jp

(3) 評議員

相場慎一郎, 阿部健一, 市岡孝朗, 市川昌広, 伊東明, 井上真, 大久保達弘, 奥田敏統, 落合雪野, 北島薫, 北村俊平, 佐藤保, 竹田晋也, 田中憲蔵, 藤間剛, 百村帝彦, 増田美砂, 山田俊弘, 湯本貴和, 横山智

(4) 吉良賞選考委員会

落合雪野(選考委員長), 原田一宏, 増永二之, 米田令仁, 伊東明※

※竹田晋也氏が外れ, 伊東明氏を追加

9. 第 16 期(2020~2021 年度)会長・評議員選挙

2019 年 10~12 月に実施予定

2019 年 8 月 選挙管理委員の委嘱, 委員会の設立
 2019 年 10 月初旬 投票用紙発送
 2019 年 12 月初旬 投票締め切り, 開票
 2020 年 1 月初旬 選挙結果を会長に報告. 新事務

局の組織.

10. ダイバーシティ推進費(仮称)の設置について
 JASTE では, 2018 年度から JASTE 大会の期間中の託児費用の補助を行っている. しかしながら, 現在のところ同補助は事業費の年次大会の一部として支払われているため, 学会としての支援が見えにくいことが課題となっている. そのため予算費目の新設を提案する(予算額 20 万円).

また, 将来的に育児期間中の研究者に加え, 多様な会員を対象とする幅広い支援に利用できるよう, 予算名は「ダイバーシティ推進費」とする. 託児補助以外の使途については今後, 大会や学会 ML などを利用して幅広く会員から意見・要望を募りたい.

11. 若手の国際学会(ATBC)参加に対する渡航費支援について

2017 年度は若手研究者支援事業として「若手研究者による研究集会の開催支援」を開始したが応募は 0 件であった. 2018 年度は JASTE29 において若手自由集会の枠を確保することで応募を促したが, 応募数は 0 件であった. そのため学会として, より若手にとって利用しやすく, かつ学会の発展につながる若手支援の方法として, 若手の国際学会(ATBC※)参加に対する渡航費支援を提案する(予算額 20 万円). 以下に募集の原案を示す. なお, 「若手研究者による研究集会の開催支援」は廃止し, 同額の予算を「若手の国際学会参加支援」に充てたいと考える.

※ ATBC (Association for Tropical Biology and Conservation)

2019 年度の募集案

- ・応募資格: 40 歳未満の JASTE 会員(2020 年 4 月 1 日時点)
- ・対象となる研究集会: ATBC(全体会議および Asia Pacific Chapter)
- ・助成金額: 1 件あたり 10 万円を上限とする(予算総額 20 万円)
- ・応募期間: 2019 年の ATBC については 2019 年 10-11 月(2019 年度予算による). 2020 年の ATBC については 2020 年 1-2 月(2020 年度予算による).
- ・助成予定件数: 年度あたり 2~4 件を助成予定(総額 20 万円)
- ・応募方法: 助成申請書(書式は任意だが, 以下の項目を含む: ATBC の大会名称, 発表タイトル, 要旨, 助成を希望する理由(他の研究費の利用可能性など含む), 希望する助成金額(未確定の場合は概算), 助成金の振込先口座)を Word 等で作成し, 学会事

事務局宛にメールで送付する(jaste.adm@gmail.com)。

・助成決定:学会事務局にて助成の可否を審査する。審査後、応募者全員に助成の可否を連絡する。助成が決定した場合、応募者指定の口座へ助成金が振り込まれる。

・助成条件

① JASTE のサポートである旨を、集会で掲示もしくは配布される印刷物に記載する。

② 大会参加報告(1 ページ程度)を日本熱帯生態学会ニューズレター(Newsletter)で報告する。

③ 助成金の使途について、支出リスト(エクセルファイル)と領収書を提出する。

・留意点

① 使用されなかった助成金は速やかに学会事務局へ返還する。

② 助成金の不正使用が認められた場合は、助成金全額を速やかに学会事務局へ返還する。

③ 採択後に別の研究費を得る等、申請時の申請内容に変更が生じた場合は、速やかに学会事務局に申し出る。その場合、助成額の減額を行うことがある。

12. その他

(1) 日本学術振興会育志賞に中村亮介氏(京都大学博士課程)を推薦。

(2) 文部科学大臣賞若手科学者賞に浅野郁氏(信州大学助教)を推薦予定。

II-1. 2018 年度会計報告(案)

後掲

II-2. 2019 年度予算(案)

後掲

III. 第 30 回日本熱帯生態学会年次大会開催予定

2020 年 6 月に広島大学にて開催予定。

大会事務局は広島大学に設置。

大会実行委員長:奥田敏統 氏

IV. その他

1. 学会パンフレットについて

事務局において学会紹介パンフレットを作成したので、周囲の方々に学会の宣伝を行う際などに活用していただきたい。なお、学会紹介パンフレットは学会事務局(保坂)に必要な部数など連絡いただければ、提供可能である。なお、電子データでの配布は不可とする。

2. Tropics について

近年投稿数が少なく、年 4 回の刊行が難しい状況である。投稿数が改善しない場合には、IF 審査等に関わる出版の定期性を守るため、年 2 回に減らすこともありうる。Tropics は取り扱う論文の幅広さ(数十ページにわたる論文から、昆虫一種のみの新種記載や新記録も扱うなど)や、迅速で柔軟な編集判断(学位審査スケジュールを考慮する)などのメリットがある。査読者には、前向きかつ早めの査読を奨励している。また、IF はついていないが Web of Science 掲載誌(Emerging Sources Citation Index)でもある。これらの点をアピールしながら、Tropics への投稿を奨励したい。

日本熱帯生態学会 2018年度決算(案)

一般会計		A	B	A-B
		2018年度決算(案)	2018年度予算	差額
1. 収入の部		7,305,310	7,097,774	207,536
(1) 会費	会費小計	2,585,090	2,480,000	105,090
	正会員(8,000円×266名)	2,288,000	2,128,000	160,000
	学生会員(4,000円×72名)	236,000	288,000	△ 52,000
	機関会員(16,000円×4機関)	48,000	64,000	△ 16,000
	賛助会員(100,000円×0口)	0	0	0
	海外会員	13,090		13,090
(2) 雑収入	雑収入小計	302,446	200,000	102,446
	利息	2		2
	別刷売上	0		0
	バックナンバー売上	0		0
	年次大会収入	160,011		160,011
	掲載料等	108,000		108,000
	寄付	0		0
	その他:学術著作権	34,433		34,433
(3) 前年度繰越金		4,417,774	4,417,774	0

日本熱帯生態学会 2018年度決算(案)

一般会計		A	B	A-B
		2018年度決算(案)	2018年度予算	差額
2. 支出の部		7,305,310	7,097,774	207,536
(1) 運営費	業務委託費	404,611	500,000	△ 95,389
	印刷費	0	10,000	△ 10,000
	消耗品費	522	20,000	△ 19,478
	通信運搬費	2,480	100,000	△ 97,520
	会合費	0	10,000	△ 10,000
	旅費	94,416	300,000	△ 205,584
	賃金	0	10,000	△ 10,000
	ホームページ運営費	177,811	100,000	77,811
(2) 事業費	年次大会	200,000	200,000	0
	ワークショップ	150,000	150,000	0
	若手研究者による研究集会の開催支援	0	200,000	△ 200,000
(3) 出版費	印刷費	1,179,140	2,000,000	△ 820,860
	編集費	85,482	200,000	△ 114,518
	通信運搬費	279,426	300,000	△ 20,574
(4) 雑費		8,410	50,000	△ 41,590
(5) 役員選挙費用		0	0	0
(6) 予備費		0	2,947,774	△ 2,947,774
(7) 次年度繰越金		4,723,012	0	4,723,012

日本熱帯生態学会 2018年度決算(案)

特別会計		A	B	A-B
		2018年度決算(案)	2018年度予算	差額
1. 収入の部		1,802,895	1,802,895	0
(1) 前年度繰越金		1,802,895	1,802,895	0
(2) 利息収入		0		0
2. 支出の部		1,802,895	1,802,895	0
(1) 吉良賞副賞		50,000	100,000	△ 50,000
(2) 一般会計繰入		0	0	0
(3) 特別事業		0	0	0
(4) 次年度繰越金		1,752,895	1,702,895	50,000

日本熱帯生態学会 2019年度予算(案)

一般会計

	2019年度予算(案)
1. 収入の部	7,415,012
(1) 会費	
会費小計	2,492,000
正会員(8,000円×260名)	2,080,000
学生会員(4,000円×87名)	348,000
機関会員(16,000円×4機関)	64,000
賛助会員(100,000円×0口)	0
海外会員	
(2) 雑収入	200,000
雑収入小計	
利息	
別刷売上	
バックナンバー売上	
年次大会収入	
掲載料等	
寄付	
その他:学術著作権	
(3) 前年度繰越金	4,723,012

日本熱帯生態学会 2019年度予算(案)

一般会計

	2019年度予算(案)
2. 支出の部	7,415,012
(1) 運営費	
業務委託費	500,000
印刷費	10,000
消耗品費	20,000
通信運搬費	100,000
会合費	10,000
旅費	300,000
賃金	10,000
ホームページ運営費	100,000
(2) 事業費	
年次大会	200,000
ワークショップ	150,000
若手の国際学会参加支援	200,000
ダイバーシティ推進費	200,000
(3) 出版費	
印刷費	2,000,000
編集費	200,000
通信運搬費	300,000
(4) 雑費	50,000
(5) 役員選挙費用	300,000
(6) 予備費	2,765,012
(7) 次年度繰越金	0

日本熱帯生態学会 2019年度予算(案)

特別会計

	2019年度予算(案)
1.収入の部	1,752,895
(1)前年度繰越金	1,752,895
(2)利息収入	0
2.支出の部	1,752,895
(1)吉良賞副賞	100,000
(2)一般会計繰入	0
(3)特別事業	0
(4)次年度繰越金	1,652,895

第29回日本熱帯生態学会年次大会(札幌)開催報告

第29回日本熱帯生態学会大会実行委員会

第8回大会以来、21年ぶりの札幌開催となった第29回大会(2019年6月14日～16日)は、多くの会員のみなさまの参加とご協力を賜り、無事終了いたしました。とりわけ、プログラム編成や要旨集編纂、託児サービスの実施諸業務、JASTEニューズレターの大会案内掲載など、すべて学会執行部でご担当いただき、大会の実施が可能となりました。厚くお礼申し上げます。

本大会の参加者は113人(一般84人・学生29人)、口演発表54題、ポスター発表29題を数えました。以下の発表が本大会の優秀発表賞に選ばれました：

早川千尋, カンデル・サロジ, 原田一宏

“ネパール・サクティコール地域における森林政策と地域での森林資源利用”

河合清定, Surachit Waengsothorn, Nisa Leksungnoen, 岡田直紀

“東北タイの乾性落葉林と乾性常緑林における水利用特性の比較：フタバガキ科の例”

亀井啓明, 立花慧, 北島薫, 金子隆之, I-Fang Sun, Chia-Hao Chang-Yang

“台湾北部の山地常緑広葉樹林における下層植生の密度と多様性”

また、16日午後の公開シンポジウム(話題提供4題)には約70人が出席しました。なお、本大会要旨集の電子版は以下からダウンロードいただけます：

<http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~jaste29/>

来年の広島大会実行委員会にバトンをお渡します。

JASTE29実行委員会 一同

JASTE29託児サービス開設・利用報告

日本熱帯生態学会事務局 庶務幹事(男女共同参画担当) 四方籌(京都大学)

2019年6月15・16日に開催された第29回日本熱帯生態学会年次大会(JASTE29)では、昨年の静岡大会に引き続き託児サービスを開設しました(写真)。1日目に3名、2日目に4名、のべ7名のお子さんの利用がありました。大会会場と同じ建物内の会議室を託児用にお借りすることができたので、空いた時間にすぐに子どもたちの様子を見に行くことができ、保護者の方々も安心して学会に参加することができたのではないかと思います。大会委員長の大崎満先生、大会実行委員の甲山隆司先生、露崎史朗先生をはじめ北海道大学のスタッフの皆様には、託児開設にあたりご理解・ご尽力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。利用者の方からは、以下のような感想をいただきました。

- 今回託児を利用させていただき、学会に参加することができました。会場と託児の部屋が近く、またプログラム前後の時間帯まで余裕のある託児時間を確保していただき、とても利用しやすい環境でした。さらに、託児費を



全額補助していただき、負担がなく大変助かりました。また、託児の前後にはロビーなどで子供にお声がけいただいたり、励ましの言葉をくださった方もおり、育児と研究の両立に励みとなりました。託児環境を整えてくださった大会運営事務局の方々をはじめ、ご理解をくださった皆様に心より感謝申し上げます。

➤ 例年はポスター発表でしたが、娘を預かっていただいたおかげで無事発表と総合討論を行うことができました。学会から補助をしていただき、ありがとうございました。今回は父親としてお世話になりましたが、父母の区別無く使わせていただけたのも助かりました。

いただいたご感想にもありますように、学会託児室の開設は、学会参加を制限されていた会員が学会に参加しやすくなるのが大きな利点であり、研究活動にプラスになります。その一方で、子連れでの学会参加は、とくに遠方で大会が開催される場合には経済面や子どもの健康管理など、さまざまな困難を伴うため躊躇しがちです。このような状況を考慮し、JASTE で

は昨年度(2018 年度)から大会期間中の託児サービスの開設と託児費用補助を開始しました。昨年は利用者負担額の部分補助を行いました。今年度はより積極的な大会参加を促すべく、全額補助でのサービス提供としました。今後も全額補助を基本とした託児支援を目指したいと考えております。

さらに、今年度より学会予算費目として「ダイバーシティ推進費」を新設し、託児費用補助を行いやすくと同時に、育児中の研究者だけでなく、多様なニーズをもつ会員がより参加しやすい学会環境づくりを行いたいと考えています(現在提案中)。どのような活動・支援がありうるのかについては、幹事会や評議員会でも検討していきますが、幅広く会員の皆様からのご意見をお待ちしております。

書評

どんぐりの生物学—ブナ科植物の多様性と適応戦略(学術選書 088)

原正利著. 2019 年. 305pp. 京都大学学術出版会(価格:2,000 円+税, ISBN 9784814002085)

Book review *Biology of acorn*. By HARA Masatoshi. 2019. Kyoto University Press, 305pp.

相場慎一郎(鹿児島大学大学院理工学研究科)

AIBA Shin-ichiro (Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University)

もし日本産ブナ科植物の果実を全部並べて、子どもに「どんぐり」を選ぶように尋ねるとどうなるだろうか? 殻斗(ブナ科だけに見られる器官で、いわゆるどんぐりの「帽子」のことだが、これは植物学的には不適切な表現だという;第 3 章参照のこと)がついたままだと殻斗から果実が飛び出ているコナラ属とマテバシイ属だけを選び、殻斗がなければ同じ砲弾型の果実のシイ属も選ぶが、殻斗がなくても砲弾型ではないクリやブナ属はどんぐりには含めないのではないだろうか。本書はブナ科果実をすべてどんぐりと呼んでいるので、「どんぐりの生物学」はすなわち「ブナ科植物の生物学」とほぼ同義である。本書の副題から、本書は特にブナ科植物の多様性と適応戦略に着目してまとめられていることがわかる。

第 1 章は、化石研究に基づき「ブナ科植物の誕生と分化」について説明している。表 1-1 には、ブナ科およびブナ科に関連する(類縁がある?)と推定される化石が一覧表にして示されている。化石の産出地域はすべて北半球(北米、東アジア、ヨーロッパ)で、ブナ科はローラシア大陸起源であることが推察される(そのため、最近アルゼンチンでみつかったブナ科化石は大発見である; Wilf et al. 2019, *Science* 364, eaaw5139)。東アジアでは、極東ロシア・中国とともに

日本からも化石が出土しており、ブナ科と推定される最古(白亜紀後期)の材化石は北海道産だという。驚くことに、絶滅したブナ科属の中には風散布と考えられる果実を持つものもあった(*Fagopsis* 属)らしく、図 1-4 の復元図を見るとアカネ科のカギカズラ属に似た花序を持っていたよう

だ。本章の最後には、現存のブナ科・クルミ科植物で見られる分散貯蔵型の果実が風散布など非生物散布果実から進化したことが述べられ、新生代になってげっ歯類が出現するとブナ科化石種の多様性が増加することから、ブナ科植物の現代化と多様化はげっ歯類との共進化によることが示唆される。

第 2 章は、「ブナ科植物の多様性」についてである。まず、ブナ科各属の系統関係(図 2-1)が示された後、世界におけるブナ科の分布(図 2-2)が示される。ローラシア起源であることを反映し、現生のブナ科植物は北半球に偏った分布を示す。属レベルでも種レベル



でも多様性が最大なのは中国、とりわけ雲南省である(ただし、文中の 178 種に対し、図 2-2 では 150 種未満となっている)。ボルネオ島も種多様性が高く(約 100 種)、北米全体の種数をわずかに上回る。中国・ボルネオ島では、コナラ属だけでなく、マテバシイ属・シイ属の種数も多いのが特徴である。北米・メキシコも種多様性は高いが、種数が多いのはコナラ属のみである。東南アジアと南米でのみ南半球にまで分布する。本章それ以降の部分では、属ごとに分布パターンや属内の分類が解説される。

第 3 章は「どんぐりの形態学」で、植物学的には「かなり解りにくい代物」であるどんぐりの構造が丁寧に説明される。さらに、派手な花卉がなく一見単純そうに見える花序にも多様性があり、進化の過程でさまざまな短縮化・単純化が起こって「極めて解りにくい」花序の構造ができたと推定されることが述べられる。続いて、ブナ科の送粉様式について説明され、遺存的な属(カクミガシ類など)で送粉様式がはっきりしないものが多いのに対し、ブナ属・コナラ属は風媒、シイ属・マテバシイ属は虫媒とはっきりしている(と考えられている)ことから、風媒と虫媒の両方を行う祖先的な植物から、いずれかに特殊化した属が進化したという仮説が提示される。送粉に関する事項の中で興味深いのは、ブナ科では風媒花の方が虫媒花よりも花粉粒が大きいことである。本書はその理由を「花粉の大型化は飛散力を高めるためだろう」としているが、本当だろうか。さらに、針葉樹でも普通の現象とのことであるが、受粉が起こったあとの授精までに 1 年以上かかることがあるというのも驚きである。その理由はよくわかっていないらしい。このことがブナ科の一部の種(Hirayama et al. 2012, *Ecol Res* 27: 1059-1068)で見られる隔年結実と関連しているのか知りたかったが、それに関連した記述は本書に見当たらなかった。

第 4 章は「ブナ科植物の芽生え」についてである。ブナ科では、より祖先的なブナ属・カクミガシ類が地上子葉性、その他の属が地下子葉性であるので、前者から後者が進化したと考えられる。第 1 章で、ブナ科植物の現代化と多様化はげっ歯類との共進化によることが唆されたが、げっ歯類に分散してもらうためには大型のどんぐりの方が餌として魅力的であろう。本書では発芽後の食害から子葉を食害されるのを避けるために地下子葉性が進化した可能性が指摘されるが、子葉が大型化すると力学的な制約から地下子葉性になりやすいという可能性もあると思う(巨大な子葉を地上に展開するためには丈夫な支持器官を作るコストが必要になるので)。熱帯のブナ科では実生の根が紡錘形に膨れる種がみられ、日本のシリブカガ

シの稚樹にも同様の特徴があるという。このことも子葉の被食影響の軽減という観点から理解できることが指摘される。

第 5 章の「どんぐりと昆虫」では、虫えい(虫こぶ)を作る昆虫と、どんぐりを食べる昆虫について解説される。昆虫は次章で扱われる哺乳類・鳥類と異なり、どんぐりの散布に貢献することはない。日本産の虫えい 1422 種類のうち、278 種類(19.5%)がブナ科植物に形成され、これは植物の科として最多であるという。ただし、そのほとんどは葉に形成され繁殖器官に作られるものは少ない。クリの害虫クリタマバチは芽に虫えいを作り、そこから作られるはずの果実を正常に実らなくするため、果実生産量に大きな影響を与える。コナラでは雌花に虫えいを作るタマバチ(種不明)が知られ、やはり果実生産量に大きく影響する。どんぐりを食害する昆虫としては、ブナ属ではブナヒメシクイなどの鱗翅目(蛾)がほとんどである一方、コナラ属では鱗翅目とともに鞘翅目(ゾウムシとキクイムシ)も重要である。シイ属・マテバシイ属では研究例が少ないという。

第 6 章の「どんぐりと哺乳類・鳥類」は、どんぐりの「食べ残し散布」あるいは「分散貯蔵散布」に焦点をあてる。この散布様式は、果実が動物にとって魅力的な餌でありながら、食べ尽くされることがないという微妙なバランスの上になりたっている。動物に食べ尽くされないための性質として、(1)物理的防御、(2)化学的防御、(3)マスティング(結実量が年によって大きく変動すること)が進化したと考えられる。(1)としてはクリのようなトゲのはえた殻斗、(2)としては種子の子葉に含まれるタンニンが代表的である。(1)と(2)にはトレードオフの関係があると予想され、たとえばトゲで防御されたクリの種子にタンニンは少ないので、人間もあく抜きをしないで食べることができる。(3)が進化した要因としては、受粉効率を上げるためという「受粉効率仮説」も有力であるが、本書では、豊作年に食べ残しが起こり種子の生存率が高まるためという「捕食者飽食仮説」について、ブナ科での研究例が詳しく紹介される。

第 7 章は「ブナ科植物と菌類」である。菌類には植物に害を及ぼす病原菌と、植物と共生関係にある菌根菌がある。病原菌の例としては実生や堅果に感染するものがあり、近年日本で流行しているナラ枯れでは、カシノナガキクイムシに媒介される菌類が直接的な枯死原因だという。菌根菌についてみると、ブナ科植物は一般に外生菌根をつくる。ブナ科植物にはアーバスキュラー菌根もつくそうだが、これについての説明は見当たらなかった。外生菌根とアーバスキュラ

一菌根を同時につける植物種(あるいは個体)はないのか疑問に思った。世界各地ではブナ科のほか、ナンキョクブナ科・マツ科・フタバガキ科・フトモモ科といった少数の植物の科が優占して、その科の分布域内で多数の種が共存する(これを「科の優占」という)が、いずれも外生菌根をつける。外生菌根をつける樹種とアーバスキュラー菌根をつける樹種の間には競争関係があり、「科の優占」は外生菌根をつける植物がアーバスキュラー菌根をつける植物を駆逐した結果である可能性が示唆される。

第 8 章は「ブナ科植物の分布と植生」で、「特に熱帯山地について」との副題がつけられている。ブナ科植物は分布域全体ではありとあらゆる森林帯に出現するが、ユーラシア大陸西部・東部、アメリカ大陸西部・東部という 4 地域に分けてみると、地域によってはある植生帯を欠いていたり、植生帯はあってもブナ科が出現しない場合(アメリカ熱帯低地など)がある。ユーラシア大陸東部(すなわちアジア)は、存在するすべての植生帯(硬葉樹林帯は欠落)にブナ科が出現

し、これは第 2 章で示された属や種の多様性がアジアで最大であることと同様である。以上の前置きのあと、著者がフィールドワークをおこなってきたタイ北部インタノン山とボルネオ島(キナバル山とサラワク州)におけるブナ科植物の分布が解説される。本章の副題に対応して、特に垂直分布に力点が置かれている。

本書冒頭にどんぐりの多様性や成長過程を示すカラー口絵があるほか、本書全体をとおして写真・図表が効果的に使われ、具体的なイメージを持って内容を理解しやすい。ややマニアックな話題(「世界最大のどんぐりは?」「南西諸島の森とブナ科の植物」など)は 5 つのコラムにまとめられている。

以上のように、本書は、日本でも熱帯でも、また、動物にとっても重要な(それゆえ、しばしばキーストーン種と呼ばれる)ブナ科植物についての膨大な知見を、網羅的かつわかりやすくコンパクトにまとめており、日本熱帯生態学会員のみならず、多くの読者にとって有用であると信じる。

編集後記



キカラスウリが咲く季節になりました。一昨年から講義資料用に夜間の訪花昆虫(主にスズメガ類:エビガラスズメ、セスジスズメ、ベニスズメなど)を撮影してきました。今年は卒業研究の一環として、もう少しまじめに訪花昆虫の観察に取り組む予定です。わたしは早朝の調査は得意なのですが、夜間調査は苦手なので(夜は寝たい)、学生たちと調査器具を工夫して、効率よく調査できないか試行錯誤の日々です。

写真:夜間にキカラスウリの雄花を訪問したエビガラスズメ。

口吻には大量の花粉が付いていた(2018年8月29日撮影)。

ニューズレターへの投稿は、編集事務局:北村(shumpei@ishikawa-pu.ac.jp)・百村(hyaku@agr.kyushu-u.ac.jp)へ。

日本熱帯生態学会事務局

〒739-8529
広島県東広島市鏡山 1-5-1
広島大学国際協力研究科開発技術講座
Tel & Fax: 082-424-6929
E-mail: jaste.adm@gmail.com

The Japan Society of Tropical Ecology

Department of Development Technology
Graduate School for International Development and
Cooperation, Hiroshima University
1-5-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, Hiroshima
739-8529, Japan
Tel & Fax: +81-82-424-6929
E-mail: jaste.adm@gmail.com

日本熱帯生態学会ニューズレター 116 号

編集 日本熱帯生態学会編集委員会
NL 担当: 北村俊平(石川県立大学)
百村帝彦(九州大学)

NL 編集事務局

〒921-8836 石川県野々市市末松 1 丁目 308 番地
石川県立大学 生物資源環境学部
環境科学科 植物生態学分野(C210)
電話: 076-227-7478, FAX: 076-227-7410 (代表)

発行日 2019 年 8 月 25 日
印刷 創文印刷工業株式会社 電話 03-3893-3692